

日刊 動労千葉

81.11.23
No. 902

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六、公衆（電話）二七二〇七

オニオニの813決戦めざし、80年代中期の乱世にうって出る！

成田支部通信員啓

才四回成田支部定期大会は、11月20日13時より運転区講習室に來賓・代議員・傍聴95名が参加し圧倒的にかちとられた。大会は、偉大な歴史の813ジェット決戦ストを重点に総括し、その教訓と勝利の地平をもとに、激動する80年代中期の軍事大国化と改憲攻撃の強まる中で、三里塚二期着工阻止、35体制粉碎、右翼労線「統一」粉碎・動労大改革を基軸とする方針と体制を確立した。そして日暮支部長を先頭に支部組合員一四七名が固いスクラムを組んで、当面する1129三里塚現地集會、123動労千葉主催の右翼労戦「統一」粉碎二期着工阻止、首都圏労働者集會へ全力で決起しようとの大会宣言、アピールを採択し成功裡に終了した。

「813」勝利の地平ふまえて、更に前進を——日暮支部長 あいさつ——

大会には來賓として関川委員長、中野書記長、社会党成田総支部成田地区交運の伊能事務局長、労金成田支店長の野口氏、支部家族組合代表、動労千葉支援会代表が出席され、中島総務部長の司会で、議長団に石井一雄、中鉢幸治両氏を選出しはじめられた。

最初に日暮支部長から「成田支部は813を労農連帯をかけて全力で闘った。これに對し当局は解雇四名を含む二五名の大量不当処分でのぞみ、又、動労「本部」革マルは、6.12津田沼事件」をデッチあげ、10人の仲向を警察へ告訴するという労働組合にあるまじき腐敗と反動的本質をむき出した。しかしこうした攻撃は、労農連帯「813」ジェット決戦のすさまじい威力と動労千葉の底力にふるえ上った敵側の反動であり、逆に813闘

争の勝利を証明している。われわれをとりまく情勢は、軍事大国化や改憲攻撃が強まる中で三里塚二期攻撃・国鉄35万人体制攻撃・右翼労戦「統一」攻撃など極めて厳しいが、しかし動労千葉の三里塚を闘う労働運動の路線と813で発揮した力をもつてすれば充分闘えると確信する。かんばろう」と決意のこもった挨拶がなされた。

続いて來賓よりそれぞれ激励と連帯の挨拶をうけ、議事に入った。

三里塚二期決戦勝利を基軸に、闘う方針と体制を確立

運動方針をめぐって活発な討論が展開された。主な発言は、「35体制粉碎の闘い」「賃金問題」「定年制導入問題」「高令者対策」などが出され、本部・支部執行部からの答弁をうけ、向う一年間の闘う方針を満場一致で決定した。そして、「80年代中期の侵略と戦争の乱世に打ちむかい



成田支部 11/20 大会開かる

三里塚を守り、二期決戦勝利、労働者の生活と権利を果力防衛しよう。「35体制の先兵、右翼労戦「統一」の先兵、動労「本部」革マルを巨万の労働者の総攻撃をうち砕こう」との大会スローガン、宣言等を満場の拍手で採択し、熱気が盛り上がる中で新役員が紹介され、大里青年部長の首領で組合歌を合唱し、日暮支部長の力強い団結ガンバローをもって支部大会を成功裡に終了した。

成田支部 新執行体制（概略）

- ・執行委員長・日暮 明（株電士46）
- ・副委員長・高木 侖二（株電士41）
- ・書記長・大須賀昭男（株電士41）
- ・執行委員・中島正行、高津昌広、高柴康、高野隆、大竹良夫、大畑勤、松垣充、錦織芳雄、加納昭、掛札圭一、川島三郎、森内猛、岩田喬、木村信夫
- ・特別執行委員（青年部長）大里優一
- ・会計監査員・朝岡安弘（電連士24）
- ・検正一